

祝

星座石と 陸奥州気仙郡唐丹村測量之碑 日本天文遺産認定記念講演会

令和8年7月11日(土)

13:00 開場 13:30 講演開始

会場：釜石市民ホール TETTO
ホールA (入場無料)



日本天文遺産と天文学の普及活動

NPO 法人 イーハトーブ宇宙実践センター理事

かめや おさむ

亀谷 收 氏

東北大学大学院理学研究科で大質量星形成領域の電波天文学研究で理学博士となる。国立天文台水沢で観測研究を続け、奥州宇宙遊学館の館長を経て、現在はNPO 法人イーハトーブ宇宙実践センター理事として天文学の普及に尽力し、日本天文遺産の選考委員を担っている。



ビッグバンから<鉄>へ：宇宙と釜石のつながり

広島大学 宇宙科学センター長・教授

かわばた こうじ

川端 弘治 氏

山田町出身。釜石南高校を卒業後、東北大学へ進学し天文学者の道へ歩む。専門は可視赤外線天文学で、恒星の爆発現象や、星間物質の進化現象を研究している。現在は広島大学宇宙科学センターで研究を進めつつ、日本天文学会天体発見賞選考委員会委員長や広島岩手県人会代表を務めるなど、天文学と岩手の魅力の普及を担っている。

日本天文遺産と郷土の天文学者 葛西昌丕

日本天文遺産とは、歴史的に貴重な天文学・暦学関連の遺産を大切に保存し、次世代に伝え、その普及と活用を図ることを目的とし、日本における天文学的な視点で歴史的意義のある史跡・事物に対して日本天文遺産の認定を行うものです。

「星座石」と「奥州気仙郡唐丹村測量の碑」は、江戸時代末に西洋天文学が地方にまで普及したことを示す証拠であり、また、観測による緯度変化の証明（地球微動の有無の証明）を後世の人々に託そうとした天文学者葛西昌丕の努力の痕跡です。これらが地元の住民により大切に守られていることが併せて評価され、日本天文遺産に認定されました。全国 20 例目、岩手県では3例目となります。

葛西昌丕 (1765 ~ 1836) は、民間の天文暦学者で屋号を西村と称する代々漁業に携わる本郷の名家、葛西家に生まれました。天文学・国学・文学・歴史・地理・臨池（書道）などに精通し、伊能忠敬の業績を記す「奥州気仙郡唐丹村測量の碑」や「星座石」の作成、天照御祖神社への三扁額奉納、新道峠の開拓（普請）など、唐丹を代表する郷土の偉人です。

〇陸奥州気仙郡唐丹村測量の碑（岩手県指定文化財・天文遺産）

伊能忠敬が唐丹村を測量した 13 年後の文化 11 (1814) 年に建立されました。伊能が存命中にその業績を記した唯一の石碑です。

さそり座を意味する天蝸の文字と測量の結果から北緯 39 度 12 分を得たと刻まれています。また、測量技術の進歩と西洋天文学の知見から、「地球の微動有らざらんか」⇨地球は微動するという西洋の学説を、後世の人に確かめてもらいたいという、未来に向けたメッセージが記されています。

伊能忠敬の顕彰、天文学の伝播、江戸時代の測量資料など多方面の歴史的意義を有しています。

〇星座石（岩手県指定文化財・天文遺産）

測量の碑と同時期に作成され、奇巖亭付近に建立されていました。中央に北緯 39 度 12 分、外周に黄道十二宮（星座）と十二次（季節）が刻まれています。季節と方角を記した測量の証明資料であり、当時の天文学が西洋天文学と中国天文学の知識を融和させていたことを示しています。



天蝸

陸奥 量北極出地度數越享和元年辛酉秋
 州氣 九月二十四日以及我郷測定為三
 仙郡 十九度一十二分蓋測量之法古疎而
 唐丹 今密也慶長之初歐邏巴之商客船載
 村測 新製測器我方補之益精測量之法於
 量之 是乎始明矣竊以天道幽玄不可究知
 碑 若掘西洋之說則復不有所謂地球微
 動者乎請願後世諸彦或知其異同矣
 文化十一年甲戌秋月
 葛西昌丕謹識



陸奥気仙郡唐丹村測量の碑

星座石